

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え	
基本構想・基本計画総論			
1	「一歩先の価値観」とは、一歩先の求められるもの、世界からのニーズのある、価値があるものを創るという意味合いか。	日本の近代化や環境分野をけん引してきたこれまでの歴史から、北九州市は日本や世界に先駆けた価値観を体現してきたまちと言えます。価値観とは市民の皆様一人ひとりがそれぞれ持つものですが、社会情勢が大きく変化していく中においても、「一歩先の価値観」を体現できるまちであり続けたいという思いから、目指す都市像として掲げたものです。ご意見を踏まえ、目指す都市像をより分かりやすくするため、基本構想の記述を追加・修正します。	
2	一歩先の価値観、グローバル挑戦都市、よく意味が分からない。具体的にどういうものを想像してるのか。目指す都市像があいまいすぎではないか。		
3	一歩先の価値観はすでにあるものか。これから作るのか。北九州市がつくるのか。押し付けか。		
4	「愛さずにはいられない」というのが分かりづらい。主語は誰なのか。これは何を示すのか。		
5	教育、企業、行政、コミュニティの連携を行うことが大切であるという話があったが、これまではどうだったのか。具体例があれば教えてほしい。		
6	北九州市が今後復活するには市民全員で一体となった取組が必要だがどのようにするのか。		
7	北九州市の力を発揮していくというが、福岡市などと比べて行政主導になりがちな印象を受ける。		
8	新ビジョンの素案や市長の姿勢から読み取れるキーワードは「スピード感」と「オープンマインド」だと思う。これをいかに市民や企業、未来を担う子どもたちに共感してもらうかが成否の鍵を握る。		
9	他県から北九州に参入する際に繋がりが強すぎて入りにくいという意見も聞いた。		
10	若者の意見やアイデアが聞いてもらえない。		
11	北九州市は五市対等合併の弊害か、地元の利益を優先してしまい北九州市全体で考えることができていない気がする。今回のプランでも特定の区に特化した事業をすると、他区の住民や議員から反発されるかもしれないが、北九州市の発展のためなら妥協せずやり通してほしい。	北九州市では産学官民のパートナーシップにより深刻な公害問題を克服したことをはじめ、様々な課題に対し、市全体が一体となって取り組んできました。こうした「つながり」は北九州市の大きな強みだと考えています。また、まちづくりにおいては、市民の皆様一人ひとりがまちの将来像を考え、その実現にむかって取り組んでいくことが重要です。そこで新たなビジョンを策定するにあたっては、多くの方々にご意見を伺いました。こうして策定する新たなビジョンのもと、今後北九州に来られる方々も含め、市全体が一体となって目指す都市像の実現に向けて進んでいけるよう、引き続き様々な形で市民の皆様のご意見を伺いながら、スピード感をもって取組を進めてまいります。	
12	市長の話は大変ワクワクした。グローバル挑戦都市について高校生、大学生などで世界に目を向ける人財を増やすのか。その手段は何なのか。留学経験を増やすのか。インバウンドを増やすのか。観光か。移住か。		
13	迅速に随契、既得権、前例、慣習などについて大幅な見直しが必要だが、進捗はどうか。		
14	改革に伴う市民の痛みについて、限られた予算規模の下、重点戦略にある政策を進めて「稼げるまち」になるまでは、既存の市民サービスのレベルを下げて我慢をしてもらう事が避けられない。どの分野のサービスレベルを上げるのか。市民にどの様に説明して理解してもらうのか。		
15	北九州市が目指すビジョンについて若者に求めているものはなにか。また、若者と関わるために行政はどのような取り組みをしているのか。2040年を目標としている理由についても教えてほしい。		若い世代の方々には、「経験していない」という強みを生かした大胆な意見やチャレンジなどを期待しています。若者との関わりについては、北九州市では令和4年度に「Kitakyu U29」を創設するなど、若い世代の方々が北九州市の未来のために、新しいことに主体的かつ継続的に挑戦できる環境づくりに取り組んでいます。基本計画の目標年次については、これまでの基本計画や2040年問題などを踏まえて設定しています。
16	重点戦略の歯車の大きさが異なるが意味はあるのか。		3つの重点戦略はいずれも重要ですが、「安らぐまち」の実現は市民生活において最も基本的で大切なものであることから、大きな歯車としてイメージしています。
17	福岡市と棲み分けて共存も意識すべき。		北九州市の特色を生かすとともに、基本計画第2章1-(2)のとおり、福岡市とも連携を図ってまいります。
18	新しいビジョンが簡素化されているのはとても良いと思う。しかし、3つのそれぞれの分野について詳しく知りたい人もいると思うので、ネットで詳しく調べられるようにしてほしい。		ミライ・トークでは新たなビジョン(素案)の概要版を配布いたしました。素案全体については、市のホームページなどで閲覧できます。また、具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等において提示してまいります。

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え
19	具体策及び予算案が出ていない。	
20	イメージがわからない。具体的に何をどうするのか。例えば、稼げるようになるため、いつまでに、なにをどうする、そのために市役所がここに力を入れるというように提示してほしい。	新たなビジョンは今後のまちづくりの方向性(=戦略)を示したものであることから、具体的な取組等(=戦術等)については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。
21	なぜ「町」や「街」でなく「まち」なのか。	「町」や「街」は、指し示すものが異なる部分がありますが、それらをすべてを包含した構想・計画であることから、「まち」という表現を使っています。
22	今回のビジョンをつくるにあたり、障害のある人や家族とどう語り合ったのか、それがビジョンにどう生かされたのか、ぜひ教えてほしい。	新たなビジョンの策定にあたり、特別支援学校の生徒や保護者の方々へのアンケート、障害者団体へのヒアリングなどを行いました。意見の反映状況については市HPでご覧いただけます。また、新ビジョンの策定後、個別の施策や事業等を検討するうえで、引き続き様々な機会を捉えて、ご意見を伺いたいと考えています。
「稼げるまち」の実現		
23	令和6年度予算編成方針で「稼げるまち」を経済成長と言い換えているのはおかしい。論理を一貫させるならば「もっと稼げるまち」とすべきではないか。また成長の果実が実るまでは、市民生活の改善はやらないということか。	産学官民が一体となって、停滞傾向が続く北九州市の経済を成長させていくことを「稼げるまち」の実現と表現しています。また、経済成長を最優先課題に位置付けていますが、市民生活の改善についても並行して取り組んでまいります。
24	「稼げるまち」と言う表現は今まで北九州に根を下ろし活躍している世界的な企業などに失礼ではないか。違う表現の方が良い。	産学官民が一体となって、停滞傾向が続く北九州市の経済を成長させていくことを「稼げるまち」の実現としており、特定の企業を意図した表現ではありません。
25	三つの戦略でなぜ「稼げるまち」が一番最初なのか。	
26	「稼げるまち」は何をするにも最初に大事になってくるものだと思う。お金がないと何もできない。稼げるまちになることで、福祉も行政サービスもより良いものになっていくと期待している。	現在、北九州市は、経済成長の停滞傾向が続き、市の財政状況も厳しく、まちが活力を失い、様々な政策を実施する十分な財源がありません。そこで、新たなビジョン(素案)においては、経済成長を最優先課題に位置付け、まずはこれを実現させることで、まちの活力の向上や税収の増加などを図ります。その成長の果実をもって、市民の「安らぐまち」の実現へとつなげ、「まちの成長」と「市民の幸福」の好循環を創出してまいります。
27	今の北九州市で総花的な政策を展開してもジリ貧だと思う。政策的に稼げるまちの実現に注力するのは理解できる。	
28	高齢化が進展して福祉施策(医療費など)で首が回らなくなる前に、稼げるまちを実現して元手を稼いで、まちも住民サービスもアップグレードしてほしい。	
29	「稼げるまち」について、結局は都市間競争の話で長続きしないのではないか。	
30	まちがどうやって稼ぐのか。誰が稼ぐのか。誰かが稼ぐということが、トリクルダウンではなく、別の誰かの出費が増加するという事にならないか。	「稼げるまち」の実現とは、産学官民が一体となって北九州市のポテンシャルを最大限に発揮することにより、経済成長を実現させ、雇用の創出のほか、市内企業等の収益や働く人々の収入の向上、税収の増加などを図り、強い経済と活力のあるまちを目指すものです。
31	「稼げる」を「どの分野の施策であっても」念頭に置かなければならないというのは地方自治体の政策としては、あってはならないことではないか。	経済成長を最優先課題に位置付けていますが、どの分野の施策においても「稼げること」を念頭に置いているわけではありません。
32	さまざまな商品開発を行っており、販売活動を積極的にしていきたいが、稼げるまちになったらどんな未来が待っているのか。	稼げるまちの実現により、市内経済が成長すれば、市場が大きくなり、販売活動の拡大や新たな商品開発において、様々なチャレンジの可能性が広がります。
33	稼げるまちの説明に、社会課題解決と経済成長の両立とあるが、どういうことか。	北九州市は深刻な公害に対し、産学官民が解決に総力を挙げて取り組んだ結果、新たな技術を開発し、環境への負荷を小さくしつつ、生産性も向上させる経済的効果を生み出しました。このように、少子高齢化・人口減少などの新たな課題の解決に挑戦する過程においても、未来志向の産業の創出や集積などに取り組み、「社会課題と経済成長の両立」を実現してまいります。
34	環境はこのまちのアイデンティティだと思うが、ビジョンを見ても、今後どのように取り組んでいくのか記載がないのはなぜか。	北九州市の「環境先進都市」、そして「SDGs未来都市」としての取組は国内外で評価されており、大きな強みがあります。引き続き、基本計画第2章3-(3)の「(仮称)北九州グリーンインパクト」の推進をはじめ、自然環境の保全を含めた環境分野での取組を進めてまいります。また、自然環境の保全については、基本計画第3章1-(1)に記述を追加します。

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え
35	もっと色々な選択を北九州市でできるようにして欲しい。救命の専門に進みたいが福岡市などにしかない。出来れば北九州市に留まりたいので検討願いたい。	「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現により、多様な働き方やライフスタイルへのニーズに応えられるまちを創出してまいります。また、ご意見については、関係部局に伝え、今後の参考とさせていただきます。
36	空港利用や観光客の増加のためには交通網をしっかりと作るべき。公共事業として市がもっと積極的に行わなければならない。	基本計画第2章1-(1)のとおり、陸・海・空のネットワークの構築に取り組んでまいります。
37	物流に力を入れるなら空路ばかりに注力せず、関門海峡を渡る交通網を充実させるべき。	
38	フェリーターミナルも、他市にない大規模な「つながり」資産である。	
39	大口の企業誘致で仙台に負けたが、北九州には具体的に何が足りないと考えているのか。	企業誘致には、受け皿となる産業用地が必要と考えており、基本計画第2章1-(3)のとおり、新たな産業用地などの創出に取り組んでまいります。
40	企業誘致の受け皿として、工業団地の用地などの準備をしていくのか。	
41	若者は就活が必須だが、介護する人も配慮するという。自宅での就業もあり得る。支援は本気なのか。	基本計画第2章2-(3)のとおり、介護を迎えても、個人が希望する形でキャリアの継続等ができる社会を構築するための取組を進めてまいります。
42	介護しながら仕事は理想に思える。	
43	近年の医療技術等の進歩によって、小児慢性特定疾病をはじめ、多くの慢性疾患を抱える児童が思春期・成人期を迎えるようになってきた。こうした人をどのように稼げる人に育成させるのか。	基本計画第2章2-(4)のとおり、年齢や障害の有無に関わらず、市民の活躍の場を広げ、経済的な自立を促進するため、学び直しや就業環境の整備などの取組を進めてまいります。
44	学び直し支援はないのか。	
45	「稼げるまち」の実現に向けてはやはり外国の方の力が必要。外国の方の技術力をアップさせていくために学校の設立や取組が必要。	基本計画第2章2-(4)のとおり、外国人の日本語能力や技能・技術の向上を図る取組を進めてまいります。
46	外国人労働者については、これからどのような対応を行っていくのか。	
47	人口減少化の中、今後不可欠となる外国人労働者受入の支援や多文化共生社会創りについて、市のビジョンでの方針を知りたい。	基本計画第2章2-(4)、第4章2-(1)のとおり、外国人の定着や多文化共生の理解促進に向けた取組を進めてまいります。
48	EVをテーマにあげているが、北九州は高速充電の施設整備が遅れている。電気自動車を推進して、日本でナンバーワンを狙ってほしい。	基本計画第2章3-(2)のとおり、次世代自動車や宇宙などの未来産業の育成・集積に取り組めます。具体的な取組等のご意見については関係局に伝え、今後の参考とさせていただきます。
49	半導体や水栓器具以外で生産をしてみたいものや生産を増やしたいものはあるか。	
50	稼ぐことも大切だが、地域の自給自足も大切。第一産業の衰退は生活の根幹をゆるがすもの。自然に恵まれた北九州こそ、具体的な対策をしてほしい。	基本計画第2章3-(5)のとおり、農林水産業において、地元生産物のブランド化や安定生産・増産などに取り組んでまいります。また、具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等において提示してまいります。
51	一次産業が目指すべき未来について知りたい。	
52	花粉症対策やウッドショックを踏まえた、これからの北九州市の森林や林業をどう考えているのか。	
53	市長の話を聞いて、本当に北九州の未来にワクワクしてきた。先日PSMCの誘致を逃されたのを悔しく思うという記事も読んでいたので、市長の本気、やる気を改めて感じた。今後も企業誘致に取り組むと思うが、外資企業、外資のスタートアップに対しても注力するのか。	基本計画第2章3のとおり、国内外の企業の誘致に取り組んでまいります。
54	北九州市は福岡市に比べ、世界にも進出するような大企業が多いが企業間のつながりが弱いように感じる。企業間のつながりについてどう考えるのか。	企業間の連携は重要と考えており、パーツネット北九州や北九州DX推進プラットフォームなど、企業をつなぐ様々な取組を進めています。
55	カーボンプライシングについてはどう考えているのか。東証プライムではCO2の排出権取引が始まっているが、中小企業だけでは相手にされない。北九州市に協力してもらえるのか。	どのような協力が必要なのか、具体的な内容によりますので、関係局(産業経済局・環境局等)にご相談ください。
56	元住友金属の小倉にある広い土地が使われていないと聞いたが、これからその土地をどのように使われていくのか教えてほしい。	個別の私有地の土地利用については回答いたしかねます。

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え	
57	北九州空港の滑走路を延長しても鉄道が繋がっていないので物流はあまり良くならないのではないか。大量の物資を取り寄せるのであればトラックだけの輸送は効率が悪い。空港に届いた物資をどう運んでいくのか。		
58	北九州空港はまだまだ伸びる余地がある。アクセス鉄道の整備や地元食材を使用したレストラン・展望大浴場などの楽しめる場所があれば、内外から人を呼び込むことができる。		
59	北九州空港について、世界の空港に目を向けてみると現在は4,000mの滑走路が主流で3,000mの滑走路は充分とは言えないと思う。		
60	経済発展の手段として、北九州市の物産品を買ってもらう有効需要を高めることも重要。		
61	市内に研究拠点を作り、市内の大学等から半数以上を本社待遇で現地採用する企業については市税を優遇したり、市内の大学等へ多額の研究費を補助することにより、人材を確保できるようになると考える。優秀な人材を確保できればGDP4兆円の達成は可能と思う。		
62	近年の医療技術等の進歩によって、小児慢性特定疾病をはじめ、多くの慢性疾患を抱える児童が思春期・成人期を迎えるようになってきた。このような方々が働きやすくなるためには自治体障害福祉課と企業、医療の連携が必要。自治体の窓口も木曜日延長だけでなく土曜日開庁してくれたら働きやすさは増す。	<p>新たなビジョンは今後のまちづくりの方向性(=戦略)を示したものであることから、具体的な取組等(=戦術等)については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。また、具体的な取組等へのご意見については、関係部に伝え、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。</p>	
63	「稼げるまち」の実現という戦略はとても良いと思うが、てんかんのような持病を持つ人に対するの方策があるのだろうか。		
64	市場で協力しあって高齢者向けの弁当の作成と配達ができる関係を作れるようにしたら良い。		
65	低所得層から中堅に伸ばす取り組みとして事業者を育てるシステムが必要だがテナント賃料が大きい壁だと考えている。賃料を支援する取り組みなどできないか。		
66	北九州市には工業的な部分が多いが、医薬品などの医療化学分野が少ない。医薬品関連企業誘致などを考えているのか。		
67	高齢化が急速に進んでおり、工業だけでなく医療分野の活性化も必要だが北九州市は医療従事者不足が課題。これは市内の医療従事者の賃金の低さもあるが、この分野でも稼げる街とするならばどのような策がありえるか。		
68	北九州市に限らず福岡市も周辺市町村に稼げる産業や税収源が分散している。難しいかもしれないが、稼ぐ産業を持つ周辺自治体の編入も有効ではないか。		
69	サーキュラーエコノミーに向けては技術も資金も市民の協力も必要。どの様に進めるのか。		
「彩りあるまち」の実現			
70	「稼げる」と「安らぐ」は想像しやすいが、「彩りあるまち」というものの具体性がよく見えない。具体例とプランを知りたい。		<p>「彩りあるまち」の実現に向けては、基本計画第3章のとおり、魅力的な街並みや生活環境の整備、都市の魅力発信、心身に潤いや活力を与える文化芸術やスポーツの振興、エンターテインメントによる賑わいづくり、観光地の魅力向上、多様で質の高い教育環境の充実などに取り組めます。具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。こうした取組によって、まちへの「愛着」や「求心力」を高めてまいります。</p>
71	市から離れる若い人に話を聞くと北九州に楽しさを感じないと言われる。彩りあるまちを目指すなら若者に楽しさを伝えられる具体的なものを示して欲しい。		
72	住みやすいのはわかるが、行きたい魅力ある場所が見当たらない。活気ある街には外から人を引きつけたいと難しい。その取り組みが見えない		
73	稼げる街になったところで意味はない。娯楽の少ない街には誰も行きたいとは思わないのではないか。		
74	若者が遊びにくい街が福岡という意見が多いことを変えていきたい。		
75	福岡市に行けば何でもあるからどうしても行ってお金を落としてしまう。天神再開発もあり、ますます差がつく気がする。		

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え
76	市長の説明でシニアエコノミーの話があったが、もう少し知りたいし、是非取り組んで(ビジョンに盛り込んで)いただきたい。	ご意見のとおり、シニアの方々の活躍や心豊かな生活も重要と考えており、基本計画第3章1-(1)にシニア世代に関する記述を追加します。
77	市長の説明であったシニアエコノミーのように、高齢者＝お金がかかるでなく、高齢者も能力を發揮し、好きなことができるよう促していくことは重要。	
78	「彩りあるまち」とは駅周辺や中心部に限定されているように感じるのだが、その他の地域はどうしていくのか。	「彩りあるまち」の実現は多様なライフスタイルへのニーズ等に応えるまちの創出を目指すものです。これは、駅周辺や中心部に限定するものではなく、例えば北九州市の豊かな自然を活用した取組なども含まれており、市全体の魅力の向上を図ってまいります。
79	10年以内に急減速する商店街がどれほどあるのか。商店街は数年内に衰退すると言われた。これからは10年ではなく、3年5年プランで策定・スピード感が必要。	ご意見のとおり、スピード感をもって取組を進めてまいります。
80	稼ぐには、DXが大きなポイント。行政に出す書類など役所に行かなければならない場面がまだまだ多い。もっとオンライン化を進めてほしい。企業にとって無駄な時間が減り、生産性のある仕事に時間を割くことができる。	基本計画第3章1-(3)のとおり、DXの推進等により、行政への相談や申請手続きなどの利便性向上に取り組んでまいります。
81	福岡市は人や企業が集まる循環が生まれていると思う。北九州市がこれから、魅力的なまちをどのようにアピールして、人や企業を呼び込んでいこうとしているのか知りたい。	基本計画第3章1-(4)のとおり、国内外から人や企業を呼び込む「都市の魅力」の発信に取り組んでまいります。具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。
82	コンパクトシティ北九州の良さ。東京からUターンした一番の理由は「生活のしやすさ」だった。もっともっとアピールしても良いと思う。	
83	単身赴任から北九州市民となったが、津田会頭の仰ったコンパクトシティという魅力には共感する。	
84	どのような広報活動を行うのか具体的にしてほしい。	
85	若松にある学研都市では九州工業大学、早稲田大学、北九州市大学がある。毎年、たくさんの外国人の留学生が卒業するが、北九州市に残る人は少ない。どうやって北九州市の魅力を彼らに教えるのか。	
86	若者が北九州の良さを認識できるような、若者向けのPR活動はどのような事をしているのか。	ブランディング事業である「NewU(ニューユー)」のほか、ソーシャルメディアマーケティングに強みを持つ民間会社から広報・プロモーションのスペシャリスト人材を受け入れ、SNSなどを活用した若い世代をターゲットにした情報発信に取り組んでいます。
87	現在、日本は円安で海外からのインバウンド客が増えているが、北九州市はあまり増えていない。市長が言われるように小倉城や門司港、夜景などがあるが、やはり足りないのは温泉と富裕層向けの外資系ホテルが無い所である。温泉は可能性を探りながら、外資系ホテル誘致は市長がトップセールスで是非、実現に向けて取り組んで欲しい。	基本計画第3章2-(3)のとおり、富裕層向けの宿泊機能の確保に取り組んでまいります。また、ご意見については関係部局に伝え、今後の参考とさせていただきます。
88	市内を観光地化する必要を市民は感じていない。市民にとってはデメリットが大きいのではないのか。	観光は、ゆとりと潤いのある生活にくわえ、まちの活性化や産業・雇用の創出等に非常に大きな役割を果たすことから、その振興は重要な政策であると考えています。一方で、他都市ではオーバーツーリズムによる弊害が生じている事例もあることから、これを考慮したうえで取組を進めてまいります。
89	市内の大学の力が弱く、とても市内の大学に行かせるつもりはない。もっと特色ある大学の誘致をお願いしたい。	基本計画第3章3のとおり、多様で質の高い教育を受けられる環境づくりに取り組んでまいります。具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。
90	「稼げるまち」になるためにはAIに負けない「問いをたてる力のある人」が大事だが、そんな若者を育てるための教育についてどのように考えているのか。	
91	人口増を目指すのなら、「教育の底上げや充実」は必須。親の立場なら子どもに「教育環境が良い地域」に住みたい。これからの教育政策を聞きたい。	
92	北九州市の教育は「多様性を受け入れられている」とは言い難いと感じる。公立小学校、中学校、高校において、質の高い教育環境の充実とは具体的にどういうものか。	

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え
93	生まれてから大学まで北九州市で育つ人材も必要であるが、市外に一度出て戻ってくる人材も大切にほしい。市内で大学まで育児や教育を貫徹させるのであれば、市内に魅力ある中高大を誘致してほしい。	基本計画第3章3のとおり、多様で質の高い教育を受けられる環境づくりに取り組んでまいります。具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。
94	過去のイメージが先行しており、今の北九州市を「知ってもらおう」のは最重要課題だと思う。また、人材育成の強化(教育機関の高度化)が持続的な成長には不可欠。経済戦略視点での公立学校の強化などの計画はあるのか。	
95	イギリスのハロウスクールを誘致するなど、世界から人を呼び込む国際都市化をテーマにはしないのか。	
96	全国から中高生を集めてはどうか。有名私立大学の附属中高を誘致し、優秀な生徒を集め、北九州の素晴らしさを知ってもらい、北九州で働くきっかけをつくる。	
97	今まで通りの教育方針では、これからの時代を担う若い教員達が潰れてしまう。今こそ、変わる時。福祉の現場からも教育現場へ介入するべき。	教職員の負担軽減も重要な課題と考えており、教職員のウェルビーイングの向上について、基本計画第3章3-(3)に記述を追加します。また、ご意見は関係部局に伝え、今後の参考とさせていただきます。
98	北九州市では北九州市教育委員会がいじめや教員パワハラなどへの取り組みが薄いという声が上がっている。打開策はないのか。	
99	若者が中心にワイワイガヤガヤなれるようなまちと、魚町の客引き禁止条例のような「行政が若者を締め付けている」イメージと、なんとなく乖離があるように思うが、どう考えればよいか教えてほしい。	
100	コクラリビテーションの進捗を教えてください。発表されたのは1件だけで、進んでいないように感じる。天神ビッグバンに負けないように頑張ってください。	コクラ・クロサキリビテーションにおいては、第一弾プロジェクトである「BIZIA小倉」の工事が進められており、令和6年4月にオープンする予定です。また、新規の案件についても企業等から相談がなされており、今後ともしっかり取り組んでまいります。
101	ウォーカブルな街は良い。環境未来都市にふさわしい街。車が無くても移動できる街を目指すのはどうか。(例:折尾駅～ひびきの～グリーンパーク間にLRT)	新たなビジョンは今後のまちづくりの方向性(=戦略)を示したものであることから、具体的な取組等(=戦術等)については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。また、具体的な取組等へのご意見については、関係部局に伝え、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。
102	これからの北九州は歩道を広くして歩ける街になるというイメージを持った。一方で現在は歩道の街路樹を切り倒している。暑い夏を歩くには厳しい。歩道は歩きやすくなる工夫をお願いしたい。	
103	小倉駅北側の再開発はしないのか。活用方法が間違っているのではないか。	
104	小倉駅前に魅力的な店舗が無く、若者は博多へ買い物に行ってしまう。若者に選ばれる小売店、ファッションの店を誘致する施策に取り組んで欲しい。	
105	旧井筒屋の土地について、これからどのように対応するのか。井筒屋閉店後、歩道が通れなくなって大変不便している。	
106	旧そごう黒崎の建造物活用。	
107	活力ある街にするには、街の顔である駅前が大切。学生が使う九州工大前駅の駅前が寂しく、高校生がこの街を選ばうとしない気がする。駅前の整備に力を入れて頂きたい。	
108	商店街のシャッター街化を改善したい。	
109	商店街の活気を取り戻すために誰が何をできるのか。	
110	門司区には公園が大小170あると聞いたが、利用者には少なく、地域の交流場としては効率が悪いと感じる。統廃合して、子育て世代や高齢者が多数行き交える場を創出して欲しい。	
111	古くからの産業発展により、生活インフラが充実しているのも北九州市の魅力である。PRが控えめのため、市民の多くは下水道先進自治体であることもあまり知らないように思う。	

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え
112	大都市に集まる理由は多くの人と出会えて自分を高められて仕事にも繋がりやすいこと。ITを活用して多くの意見交換ができるサイトをつくり、実際に会って話したい、行ってみたいという気持ちになる様にしていき、活性化に結びつけて行けたら良いのではないかな。	
113	北九州市は競輪発祥の地として知られ、世界の自転車競技の発展に寄与している。今年はツールド競技も開催されており、この強みを生かすことはできないか。	
114	北九州市を活性化するためにメディアドームをぜひ活用してほしい。福岡ドームのようにコンサートや各種イベントをもっと開催できないか。	
115	門司港の観光地化について、関門花火大会以外は全て他の市外イベントに負けている。地域のまちおこしの方々が時代に合わせたイベントづくりを学べる研修などはあるのか。	
116	「観光の活性化」について、従来の観光地をさらに発展させていくのか、新たな場所の観光地化を目指して開発するのか、またどのような手法で活性化させていくのか具体的に知りたい。	新たなビジョンは今後のまちづくりの方向性(=戦略)を示したものであることから、具体的な取組等(=戦術等)については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。また、具体的な取組等へのご意見については、関係部局に伝え、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。
117	官営八幡製鐵所関連施設をうまく生かし、社会科見学や視察で日本中から客を集めよう。産業遺産都市こそ北九州の力。	
118	平尾台を貫山側からももっとPRしてほしい。貫山の魅力開発を行っていけば、平尾台の魅力が広がる。	
119	大学が全ての人に向けた学びの場になればよい。人口減少によって大学の先行きが問われる中、学校側にとっても有効な策だと思う。	
「安らぐまち」の実現		
120	これからの都市計画は、やはりコンパクトシティの方針で行くのか。だとすれば、どこを中心にコンパクトシティとなっていくのか。また、その際にはどのような方法で市民に納得してもらおうつもりなのか。	
121	山間部からの転居は、簡単にいかないのではないかな。	
122	五市合併の流れから医療施設等は過剰な傾向が見受けられる。コンパクトシティの観点からも最適化が必要だと考えるがどうか。	基本計画第4章1-(3)のとおり、公共施設マネジメントの観点から公共施設の集約再配置等に取り組んでまいります。具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。
123	行財政改革のメインとして、公共施設マネジメントは必須。どのようにして進めていく予定なのか。	
124	夜間産業に配慮がない。治安。	基本計画第4章1-(2)のとおり、犯罪のないまちづくりを推進してまいります。
125	北九州市に進出してこようとした企業が、暴力団にみかじめ料を取られる事などを懸念して進出をやめたと報道されたことがあった。こうした懸念は現在ではなくなったと言えるのか。	平成26年から始まったいわゆる「頂上作戦」をきっかけに、市民、事業者、警察、市議会、市が一丸となり、勇気を持って暴力追放の動きを加速させた結果、暴力団はほぼ壊滅状態となり、刑法犯認知件数は大幅に減少しています。北九州市は「怖いまち」から「日本トップクラスの安全なまち」へ生まれ変わろうとしており、企業の誘致数も伸びています。
126	黒崎では依然として客引きが行われているが、取り締まり方針を転換する予定はないのか。	黒崎地区においては、令和4年9月に「客引き防止看板」を設置し、各店舗に対する法令順守の注意喚起を行いました。今後も状況を注視し、八幡西警察署や関係団体と連携しながら、来街者が安全で快適に楽しめる黒崎繁華街の実現を目指してまいります。
127	人権教育が大切。高齢者は特に相手を励ます言葉、称賛の言葉も言える人になってほしい。安らぎのある街をめざして。	基本計画第4章2-(1)のとおり、人権教育や人権啓発に取り組んでまいります。
128	活動しやすい、楽しいまちづくり、障害者にも、やさしいまちづくりはどう考えているのか。	基本計画第3章や基本計画第4章2-(2)のとおり、彩りあるまちの実現や誰もが安心して暮らせる環境づくりに取り組んでまいります。

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え
129	生活保護を17万世帯が受けていると聞いて愕然とした。その方たちをどう見ているのか。	北九州市における生活保護世帯は令和4年度平均で約1万8千世帯です。基本計画第4章2-(2)のとおり、誰もが安心して暮らせることは、まちづくりにおいて最も基本的なことです。生活保護を必要とすることは誰にでも起こりうるものであり、何らかの事情で生活に困窮している方には支援が必要であると考えています。
130	自治会の加入率減少により、外灯の電気代やゴミ籠、防鳥ネットの予算が減っている。勧誘が足りない。自治会への加入勧誘活動をすべき。	第4章2-(4)のとおり、地域コミュニティ活動の活性化に取り組んでまいります。具体的な取組等へのご意見は、関係部局に伝え、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。
131	安らぐまちの実現には、高齢者の活躍がキーワードではないか。そう言った点では、高齢者の多い北九州にはチャンスではないか。	基本計画第2章2-(4)、基本計画第4章2-(5)のとおり、高齢者の方にも活躍していただけるよう、年齢に関わらず働くことができる環境の整備や生涯現役に向けた活動などの活性化に取り組んでまいります。具体的な取組等は、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。
132	北九州市を盛り上げるために高齢者に何ができるか模索しており来場した。今後具体的に参加の機会を提案いただけると嬉しい。	
133	若者や女性だけでなく、我々高齢者も地域に活力を与える役割を果たしていきたい。	
134	全国的にも問題となっている空き家問題には、どのような取り組みを計画されているのか。	
135	無人民家を減らしたい。	
136	高齢者筋力トレーニングに通っていて大変感じるの、思った以上に市は高齢者に関する取り組みをしているということ。是非もっと広げていただきたい。	
137	北九州市には助産院や産婦人科などに人材が溢れているが、なかなか出生率が伸びないと感じている。北九州市独自に開発したアプリの普及率が課題だと考えるが、教育の分野などからアプリ普及および妊活等の向上につながるものはあるのだろうか。	
138	今の状況は若者が流出し、高齢者は取り残されている。一方で医療、福祉の考え方が古くとも遅れている。その意識改革もお願いしたい。	
139	婚活パーティーを促進してほしい。	
人口増に向けた道筋		
140	100万人復活を目指す理由は。	市民が日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模の上に成り立っており、人口減少が続くことは、将来の社会経済活動に大きな影響を及ぼします。そこで、基本計画第5章では、北九州市の人口増加に向けた道筋を提示しています。
141	市民を護るのに人口増加が必須とは思えない。	
142	グローバル挑戦都市として、企業誘致は勿論、人材の確保(特に技術者)が重要。北九州市では九州工業大学や北九州高専などで、将来有望な若者が多く育つ一方で、その多くが東京などの企業に就職し、地元を離れている。若者が北九州市に定着できる環境整備には、なにが重要と考えているのか。	
143	北九州市の学生の多くが、進学や就職時に福岡市や関東地方に流れている。商業施設の充実、小倉駅、黒崎駅の再開発などが大切。若者が住みたい、そして遊びに来たい北九州市をつくるにはどうすればよいと考えているのか。	
144	北九州には大学生が多いが、市外流出が止まらない。即座に対応できる施策などあれば教えてほしい。	
成果指標		
145	10年以内に4兆円を超えるGDP10%アップとあるが、この目標はストレッチゴールと言えるのか。	市内総生産4兆円については、市政発足以来超えたことのない数字であり、その達成には過去10年間の年平均成長率の2倍以上の成長が必要です。必ずしも容易な目標ではありませんが、産学官民が一体となって、北九州市の総合力を高めていくとの考えのもと、挑戦が求められる高い数値目標を掲げています。具体的な取組等については、分野別計画や毎年度の予算等で提示してまいります。
146	10年後にGDP4兆円という目標は低いと思う。根拠を示してほしい。	
147	10年後4兆円は目標が低い。具体的な中身を説明し、ベストパターンをシミュレーションしているのか。	
148	目標値について、これらの数値は何らかの根拠があり実現可能なレベルで、いくつかの具体的なプロジェクトの達成を想定した値なのか。	

ミライ・トークin北九州における質問・意見及び市の考え方

番号	質問・意見の要旨	市の考え
149	社会動態(社会増減)のプラス1,000人は5年間のことか。それとも、5年後の1年間の目標か。	5年後の1年間の目標です。
150	北九州市のGDPについて、4兆円の壁からなかなか脱却できないという話があったが、脱却できない具体的な原因はどこにあるのか。	様々な原因が考えられますが、人口減少や少子高齢化を背景に市内のマーケットが縮小し、小売業の成長が大幅に低下をしたこと、民間投資額が減少していること、大きな事業所の撤退や福岡市への営業所の統合などにより、事業所数、従業者数が減少したことなどがあげられます。
151	GDP4兆円を超えたことがないのは分かるが、10年後というのは目標として低いのではないか。少なくとも10年以内の目標としてもらいたい。	ご意見のとおり、10年以内の達成を目標としています。
152	GDPを成長指標としているが、成長戦略が描きづらい世界ではなじまないのでは。またサーキュラーエコノミーを目指すのであれば、どうGDPを減らすのかを指標にする必要があるのではないか。	GDPについては、基本計画の重点戦略による取組の結果となる、アウトカム指標の一つとして掲げています。また、サーキュラーエコノミーとは、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済のことであり、その実現とGDPの増加は相反するものではありません。
153	地価が上がるだけだと、働く人が住めなくなる。対策を立てているのだろうか。	「稼げるまちの実現」による経済成長は就業者の収入向上とあわせて考えており、成果指標として、就業者の収入向上に関する指標を追加します。
154	合計特殊出生率を1.8にするという、思いきった数値目標を定めているが、達成は非常に厳しいと思う。具体的にどんな政策を掲げるのか。子ども、子育てに関する分野別計画との整合性はどのように取るのか。	合計特殊出生率の数値目標については、子ども、子育てに関する政策だけでなく、住宅や教育など、様々な取り組みを総合的に実施していく必要があると考えています。また、新たなビジョンの策定後、必要に応じて分野別計画の改定を行ってまいります。
155	他の政令指定都市との比較数値があったが、他市と差ができた原因は明確化しているのか。	経済成長の停滞が大きな要因の一つと考えています。
7つの個性が輝くまちづくり		
156	五市対等合併を引きずりすぎて、どの区にも図書館があたりすぎるが、人口減少が進む中では、早めに見直しが必要。小倉駅周辺に一点集中投資して、北九州のイメージを変えてほしい。	公共施設については、引き続き公共施設マネジメントを推進し、施設の集約再配置等に取り組んでまいります。また小倉地区では、基本計画第7章2-(2)のとおり、北九州市の顔にふさわしい、賑わいと活力がみなぎるまちづくりを進めてまいります。